

1. 緒言

Website 利用者が活用するには、それぞれ何かの目的がある。Website は利用者の視点に立って、求める情報を正確に把握しやすいことが大切と思われる。

本卒業研究では、情報工学科(以下、CS 科) Website の現状を把握し、改善策を検討した上で実際に改築し直すことを目的した。

2. 研究のアプローチ

2.1. 現状の問題点

現在、公開されている CS 科 Website の問題点を次に挙げてみた。これらの問題点を検討し、Website 制作を実行しながら改善する。

- (1)更新頻度が極めて低い。
- (2)記載情報に誤りがある。
- (3)視覚的に情報を受け取りにくい。
- (4)対象が誰なのか解らない。
- (5)W3C の勧告に即していない。
- (6)HTML, CSS, JavaScript が効果的に使われていない。

2.2. 改善方針

Website 利用者のモデルパターン作り,それらが欲しい情報をより単純に得られるように,情報の配

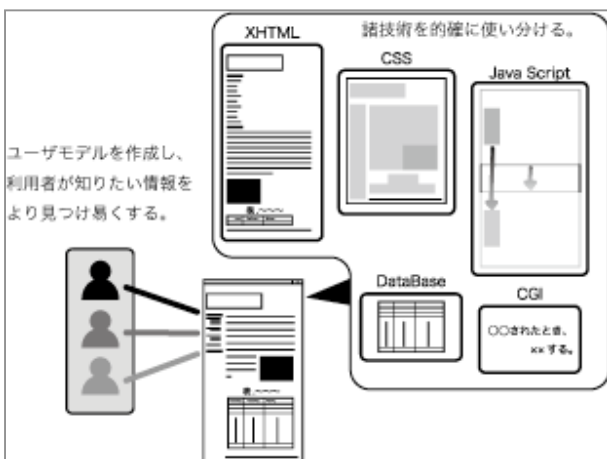


図 1.改善方針の画像化

置を検討する。

利用者は総じて CS 科についての情報を知るために Website を利用する。しかし,利用者ごとに必要な情報は異なる。

すべての利用者の求める情報を集約することも

方法としては可能であるが,その場合の利用者は膨大な情報の中から求める情報を探し出さなければならなくなる。

多くの利用者が閲覧し易い構造を実現した上で,ある程度明確なユーザモデルを作成する必要がある。

情報配置に位置や方向性を持たせることで,特定の目的の利用者に対してより効果的に情報を提供することが出来る。

情報を提供する上で最も優先度を高めるべき対象は入学を検討している中学生であろう。

今回 Website を作成するにあたって,“受験を控える中学生視点で,CS 科の現状を把握し易い Website”を目標に改善方針とした。

3. 結果

改善策として,問題点(1)については,コンテンツ編集用フォームを作成することで担当者が容易に編集できるようにするとともに,一般利用者が容易にコンテンツを編集出来ないような仕組みを用意する。問題点(2)については,今回 Website を構築するにあたり,完成段階において,情報をほぼ一新する。問題点改善(3), (4)については,事前に Website 利用者のモデルを想定することで,そのモデルに即した人物にとって効率的に情報探索が出来るようになる方針である。

4. 結論

Website 構成や制作は,本卒業論文に詳細を記述してあるのでアドバイスやご意見を頂戴したい。

5. 今後に向けて

現状の Website の問題点を検討し,情報工学科 Website を改善・再構築してみたが,さらに最新情報を利用者に提供できるように検討を重ねたい。

文献

- [1] スティーブ・クルーグ『ウェブユーザビリティの法則』(中野恵美子 訳) ソフトバンク クリエイティブ株式会社(2007).
- [2] K.T.スpeer, S.W.レムケール『視覚の情報処理』(学阪直行他 訳) サイエンス社(1986).